



一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン
2013年度事業報告書&決算書
(2013年6月1日～2014年5月31日)



連絡先：一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン
〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1丁目45番1-302号
電話06-6622-5645/ ファックス06-6621-7139
E-mail: community_4_children@yahoo.co.jp

はじめに

コミュニティ・4・チルドレン（以下、C4C）は、皆様のご支援を受け、2013年度の状況を計画の通り行うことができました。

2013年度は、タイ、フィリピンの現地団体への支援、日本・宮城県での「地域一体で取り組む防災・福祉学習推進事業」を継続・充実させることができました。

タイでは、子どもたちの見守り体制を整えるためコミュニティや保護者会、そして学校との協働の機会が増えました。

またフィリピンでは、「世界の人びとのための JICA 基金」の助成を得て、青年層のしょうがい者を対象とした自立生活支援プログラムを発展させました。

宮城県では、活動の幅が広がり、C4C主催の研修会を宮城県・福島県で開催し、宮城県内の社会福祉協議会やNPOと学習ツール開発やそのツールを活かした、子どもたちと保護者向けの学習機会を提供しました。

そして2013年10月からカンボジアのNGOである Khmer Community Development (KCD) への海外助成も始め、2014年5月には、子どもたちとの地域の地図作りワークショップを実施しました。

2014年度は、タイ、フィリピン、日本、カンボジア、それぞれの取り組みが持続し、成果が高まるように継続的に支援して行きます。現在の支援団体に留まらず、国内外に広く目を向け、新たな支援先の開拓にも力を注いで行きます。

日頃、支援いただいている会員、寄付者、協力者の皆さんにとってC4Cがより価値のある信頼できる団体となるよう努めてまいります。

1. NGO 支援事業

1-1. 海外支援事業

2013年度は、タイ国カムクーンカムペーン財団とフィリピン国 JPCOM-CARES と連携し、運営・活動を支援しました。また新たにカンボジアのNGOである Khmer Community Development と協働で、PrekChrey 地域の子ども会活動への支援も始めました。

A. カムクーンカムペーン財団（タイ国コンケン県）支援事業

カムクーンカムペーン財団（以下、KK財団）は、東北地方の農村の貧困層の子どもたちが、自分たちの地域を愛し、家族や社会に貢献できる人材に育つことができるように、子どもとコミュニティを支援しています。2013年度は以下のような活動を行いました。

（1）奨学金：出稼ぎ、死別、離婚などの理由によって両親と日常的に暮らしておらず、かつ経済的に苦しい家庭の中・高校生（専門学校を含む）、一学年につき5名、総勢30名に対して、年額6500バーツ（約2万円）を支援しています。今年、2人の女の子が専門学校3年を卒業しました。一人は家庭の事情からバンコクで働きながら通信教育を受けることを決心し、もう一人は専門学校（簿記専攻）に付属する短大に進学しました。

（2）地元文化の継承：子どもたちが急激に変動する社会で生き延びるためには、自分たちのルーツである地域の文化を身につける必要があると考えます。文化が自分のアイデンティティ確立を助けるだけでなく、廃れゆく文化の継承者として地域の発展にも貢献します。

音楽活動：地元のコンケン大学芸術学部の学生に、伝統舞踊と伝統楽器の演奏を教してもらっています。毎回、30名前後の子どもたちが、男子は楽器演奏、女性は踊りを学びます。それまで自己表現が苦手だ



った子どもたちも、伝統音楽や舞踊を通じて自信を持つようになり、様々な場面において人前で自分の意見を言えるように成長しています。

また毎年開催される全国伝統芸術大会・コンケン県地区大会の伝統楽器部門（パン・パイプ、笙、木琴など）に奨学生5名が学校の代表として選ばれ、そのうち3名が1位となりました。そして東北地方大会に出場し、木琴（ポーンラーン）中・高校枠で3位に入賞しました。このことは、本人たちの自信につながっただけでなく、他の友達の関心を引き、多くの子どもが財団活動への参加を希望し、また保護者たちも財団での子どもたちの活動に関心を寄せ、相互理解も深まりました。



演奏と踊りの練習日程

練習実施月	実施日数	参加人数(平均)	練習実施月	実施日数	参加人数(平均)
2013年6月	1日間	36	2013年12月	5日間	28
2013年7月	3日間	36	2014年1月	2日間	28
2013年8月	1日間	36	2014年2月	5日間	28
2013年9月	0日間		2014年3月	6日間	30
2013年10月	6日間	36	2014年4月	1日間	30
2013年11月	4日間	36	2014年5月	0日間	

コミュニティ文化の継承：今年は地元の大人たちに子どもの活動をより深く理解してもらい、子どもたちの見守り活動を広げるために、コミュニティ活動への参加を増やしました。



雨季である7月半ばから3か月間は、雨安居と呼び、僧侶が寺院で修行に専念し、在家信者も月に4回、一昼夜を寺院で過ごします。その期間、夕方の読経に子どもたちも参加しました。また村全体の行事であるブン・カオサーク（施餓鬼供養）は、供物の準備段階から参加しました。伝統食作りでは、村の長老から自然の恵みを使った保存食の作り方を学び、作った保存食を使って、自分たちでメニューを考えて調理しました。子どもたちの親の世代は、小・中学を卒業するとす

ぐに出稼ぎに行ったため、地元の文化を学ぶ機会がほとんどありませんでした。文化を継承させるためには、小さい頃から村の年配者に付いて様々な作法を学ぶ必要があります。

またどの活動も今年から、学校の教師の許可を得て、授業の一環として行っています。

実施日	場所	活動	参加者
2013年7月30日、8月6、14、21、29日、9月4、12、19、26日、10月4、12、19日	ノーンメック村 森の寺	雨安居期の寺での読経参加	ノーンタカイ村、ノーンメック村、ムアンポー村、ヨークラーム村の子ども*、約30名
2013年9月18-19日	ノーンメック村 森の寺	年中行事ブン・カオサーク参加	4ヶ村の子ども、42名
2013年9月21-22日	ノーンメック村 集会所	伝統食作り	4ヶ村の子ども、30名

*ノーンタカイ・ノーンメック村小・中学校には、上記の4カ村から子どもたちが学びに来ています。

(3) 技術・知識の習得

子どもたちに関わる重大な問題の一つに、放課後の子どもの居場所のないことがあげられます。授業が終わると、教師などの職員は全員帰宅し、午後3時頃に学校の門は閉められてしまいます。子どもたちが健全に遊べる場所が地域にないため、最近できたネットカフェでゲームをするか、友達どうしで集まって宴会をするなど、青少年の非行が地域住民の頭痛の種です。これまでKK財団では、放課後学校の運動場や教室の利用を学校側に要望してきましたが、協力を得ることができませんでした。

一方、地域の学校であるノーンタカイ・ノーンメック村小・中学校の生徒数が減り始めました。その理由は、教師や教育方法に対して不満を持つ保護者が増え、子どもを別の学校に通わせるようになったからです。そこで新しい試みとして、放課後の教室で希望する生徒20名に対して、簡単な英会話教室を行うことになりました。子どもにとっては楽しく英語を学ぶことにより、学業に対して興味を持ってもらい、全体的に学力の向上を図るため、学校や地域の要望とも合致しました。2013年9月10-13、16-17日に財団スタッフが教え、評判も良好でしたが、スタッフの都合でその後継続することができませんでした。

また2014年2月14日に希望者を集め読書発表会を学校で行いました。しかし参加者25名の中に、文字がほとんど読めない子や人前で全く話せない子がいたため、別の方法を検討することになりました。

視察・研修：他団体が主催する行事に参加し、有機農業や伝統技術を学び、他の地域の青少年と文化交流しました。

日時	参加イベント・研修	場所	参加人数
2013年8月23-25日	地域を愛する子どもキャンプ	サコンナコン県ブア村インペーン・センター	29名
9月9日	コンケン市青少年センター主催イベント	コンケン県コンケン市青少年センター	31名
10月11-12日	全国鳥を愛する子どもクラブ主催「鳥を愛する子どもネットワーク」イベント	チャイヤブーム県プーカオトーン寺院	30名
12月6-8日	厚生省「幸福のための音楽プロジェクト」	ラヨーン県ネンカオディン寺院	23名
12月21日	コンケン市青少年センター主催年末行事	コンケン県コンケン市青少年センター	26名
2014年1月15-17日	全国自然農法ネットワーク「大地に命を返そう」イベント	チョンブリ県バーンブン郡自然農法センター	23名

精神修行（瞑想修行）：タイでは、仏教の教えが日常生活や人生の指針になっています。瞑想修行は、平常心を養い、様々な困難に立ち向かうための精神性を培うため、幅広い世代のタイ人に人気があります。特にコンケン県ウェルワン寺とその関連施設では、若者向けに瞑想修行コースを開催しています。寺院で戒律を守りながら集団生活をすることによって、日頃体験できない規律を学びます。また僧侶も若者向けに道徳や親の恩などを教えます。子どもたちは、道徳知識や内観法を学ぶことによって、自分自身を見つめ、何事にも冷静に対処できるようになることが期待されます。1週間以上のコースに参加した子どもたちは、少し大人になって帰ってきました。

期間	場所	参加人数	備考
2014年3月15-30日	コンケン県ウェルワン寺院	2名	女性向け15日間コース
3月31日-5月4日	シンブリ県アムバワン寺院	1名	見習僧出家1か月間
4月18-24日	コンケン県ウェルワン寺院	11名	12-15歳対象1週間コース

(4) コミュニティ植林: コミュニティにおける植林事業(森を愛する子どもプロジェクト Dek Hak Khok)

植林 財団スタッフと子どもたちが地域の住民たちと一緒に、2011年に約1600㎡のノンメック村の公共地に植林した苗木は元気に育っています。2013年度は追加植林を行いませんでしたが、村の予算で村人たちが森の中に小さなため池を掘りました。そこに溜まった水を利用して苗木を育てることもできます。今後、追加肥料を与える日程を検討しています。

自然学習 2013年9月1日 保護者と共に行うネイチャーゲーム。於コンケン県カオスワンクワン国立公園。参加者60名(子ども、保護者、OB/OG、村の長老など)。今年、ノンメック村周辺の森林では、キノコなどの森の植物が通常の時期に生えてこなかったため、国立公園で行いました。今回は、OB/OGが中心になって、国立公園で木の種類を調べ、自然に関する詩やストーリーを作る活動を大人たちと一緒に行いました



(5) **保護者とのネットワークづくり**: カムクーン財団が行う子どもに対する様々な活動を保護者に理解してもらい、同じ年頃の子どもの持つ親同士が経験を語りあい、問題の解決策を一緒に話し合い、子どもとの関係をよくするために、2012年度から保護者会議と親子キャンプを始めました。



子育てや家族の問題を話し合う場としての保護者会議名を「子どもを愛する人のネットワーク」と呼び、保護者である親、祖父母、親戚、近所の人を含めた、緩やかなネットワークを作り定期的に会合を持っています。特に、タイの母の日である8月12日は、毎年親子キャンプを行うことにしました。

今回は、学校の教師も参加し、学校や家庭での子どもたちの行動について、保護者と情報交換しながら、子どもをどのように見守るのがいいのかを話し合いました。またこれまでKK財団から奨学金を得て高校や専門学校を卒業したOB/OGも集まり、自分の経験や今の生活について語ってくれました。大学の教育学部へ進学し、教師になることが決まった子、経済的理由から有利に早く就職するために、働きながら専門学校に進むことを選んだ子、家庭の事情で中学を中退したが、通信教育と介護研修を受け、住み込みのヘルパーの仕事をしている子など、それぞれが真剣に自分の人生に向き合い、自分で進路を決めていました。

子どもに対する支援は、学校、家族やコミュニティとの協働作業です。今後も保護者会の発展をサポートしていきます。

実施日	活動	場所	参加者人数
2013年8月10-12日	家族キャンプ	コンケン県カオスワンクワン郡カオスワンクワン国立公園	73名
10月27日	保護者会会議	コンケン県ノンメック村集会所	20名
2014年1月6日	新年会・保護者会	コンケン県ノンメック村集会所	69名

(6) **牛銀行**: 2012年12月より、ノンメック村において就労支援のための牛銀行プロジェクトを始め、C4Cで母牛を買うスポンサーを募集しました。出稼ぎによる若年層の流出を止め、コミュニティの担い手を育てるために、牛を育てて得た利益で村の青少年の就労支援基金を設立する計画です。母牛を買うための寄付が177,400円集まりましたが、目標額50万円に達しませんでした。また円安、牛価格の高騰などの影響を大きく受けたため、2013



年5月に母牛ではなく牛を飼うための低利子融資制度を設立することになり、6月に牛銀行委員会のメンバーが牛を買いに行きました。現在、雌牛2頭（2万5千バーツ/頭）を2世帯の家族に貸出し、3年後に利子をつけた2万8千バーツを返済してもらう予定です。

【成果と課題】これまで子どもたち個人に対する支援や活動に焦点を当ててきました。しかしいくら子どもたちに様々な知識や経験を与えたとしても、家庭やコミュニティの中での活動がないと、彼らを取り巻く環境は変わりません。そのため積極的に村の行事に参加し、村の長老や保護者たちとともに、キャンプなどを行いました。その結果、コミュニティ、特にノンメック村の全面的な協力を得て、活動を広げることができました。今後も、地域における子どもの存在の重要性に気づいてもらい、地域づくりにより一層大人たちにも関わってもらうため、牛銀行などの地域住民に対する経済的支援を含めた活動を続けていきます。

B. JPCOM-CARES (フィリピン国バギオ市、ベンゲット州カバヤン町) 支援事業

JPCOM-CARES (ジェイピーコム ケアーズ) は、子どもや青年層のしょうがい児・者たちが、健康で、学ぶ機会があり、社会的にも精神的にも自立し尊厳のある暮らしを営める社会づくりを目指して、2008年1月に発足しました。

必要な公共サービスがほとんどなく、民間サービスは高額で受けることが難しい状況の家庭がほとんどです。このような社会資源の乏しい山岳部地帯バギオ市とカバヤン町の2カ所を拠点に、2013年度は、以下のような活動を行いました。

(1) リハビリテーション&保健プログラム

① リハビリテーションセンターでの「理学療法」、「作業療法」、「教育支援」

バギオ市には「STAC5 (Stimulation & Therapeutic Activity Center: スタックファイブ)」(以下STAC5)、カバヤン町には「Ajuwan Therapeutic center」(以下ATC)があり、392人のしょうがい児・者一人ひとりに必要な「理学療法」、「作業療法」と「教育支援」をスクリーニングし、必要な支援を6,035回のセッションや様々な支援プログラムを通じて行っています。

◆年間の利用者数(人) :

	継続	新規	計
バギオ市/STAC5	220人	40人	260人
カバヤン町/ATC	124人	8人	132人
計	344人	48人	392人

◆サービス数(回) :

毎週火曜日のみ開室し、「理学療法」においてはバギオ市から理学療法士のスタッフが通って実施しました。

	理学療法(前年)	作業療法(前年)	特別教育支援(前年)	計
バギオ市/STAC5	1,545 (1,890)	2,677 (2,736)	1,495 (1,326)	5,717
カバヤン町/ATC	200 (256)	42 (91)	76 (333)	318
計	1,745 (2,146)	2,719 (2,827)	1,571 (1,659)	6,035

②健康診断&歯科治療

10月18日、バギオ市のSTAC5にて、子どもとその家族を対象とした無料の健康診断&歯科治療を行いました。小児科医、内科医、歯科医、薬剤師などがボランティアとして協力し、医薬品は、市の保健局や医療奉仕活動団体が寄付し、27名の子どもが小児科医による診察を受けることができました(内科受診44名、神経科受診27名、歯科医受診18名)。経済困窮家庭が多い中、子どもたちや家族が、健康を維持・高めながら暮らしていくためには、このような活動も大切です。

③医薬品の提供やワクチンの接種

◆7月13日、市民活動団体登山グループ27名が、センターを訪問し、ビタミンや医薬品、食品サプリメントや除菌アルコール、タオルなどの生活必需品の寄付をしました。49名の子どもたちに寄附物品が手渡されるとともに、ゲームや軽食などの交流プログラムも一緒に行いました。

◆1月、市保健局より提供された駆虫薬を、12歳以上の学齢期の子どもたち31名に配布しました。

◆5月9日、小児科医の協力により、インフルエンザワクチン7名、髄膜炎菌ワクチン36名が無料で接種を受けました。

④水治療法

9月23日、5月8日、温水プールでの水治療法を行い、子どもたち45名、その家族113名が参加しました。理学療法士は、体や関節を柔軟にし可動域を広げる水中でのマッサージ方法を保護者に指導しました。保護者からは、「子どもたちのマッサージの方法や筋肉の動かし方を知ったことで、次は自宅で」と、感謝と喜びの声が挙がりました。保護者同士が、お互いの子どもの様子に目を配りながら見守り、子どもたちも保護者もリラックスした休息の時間を過ごすことができました。



(2) 教育&訓練プログラム

①奨学金

経済的に就学することが難しい35名（バギオ市：9名、カバヤン町：26名）の子どもたちに対して、奨学金を支給しました。半年に一度、奨学金の支給時に保護者たちが集い、成績の確認や学校での学習状況などの近況報告を行いました。奨学生と保護者の個別面談も行い、家庭での学習サポートの方法などをアドバイスしました。保護者の方々からは、「課題への対応力がついてきたこと」、「コミュニケーション力が高まり家族間の絆が育ってきていること」など、子どもたちの成長を感じているといった声が聞かれました。高校を卒業した奨学生の中には、大学への進学を目指す子どもたちも出てきています。



また社会福祉士が、定期的に奨学生が学ぶ学校や家庭を訪問し、授業の様子、担任の先生と奨学生の就学状況、家庭環境、通学路などの状況について情報交換を行っています。

②学用品の支給

50名（バギオ市：18名、カバヤン町：32名）の奨学生や就学中の子どもたちに対して、学用品の支給を行いました。

③自立生活プログラム

青年へと成長している子どもたちが、将来、地域の中で、自分でまたは家族や地域の方々とともに自立した生活ができるように、2012年10月より「自立生活プログラム」を開始しました。主に、「芸術・音楽活動」、「家事技術」、「調理技術」、「身だしなみ・マナー」、「手仕事・商品づくり」に取り組んでいます。

また、「2013年度世界の人々のためのJICA基金」の申請が受理され、このプログラムに100万円の助成金を得る事ができました。バギオ市内のHappy Hallow（ハッピーハロー）村のしょうがい児・青年を対



象に、地域を拠点とした取り組みに広げることができました。カバヤン町も含めた4つのグループ、子ども・保護者を合わせた約50人が参加しています。

子ども一人ひとりにスタッフが寄り添い、丁寧に声をかけ、コミュニケーション力の強化や集中力の維持をはかっています。子どもたちの特徴、得意なこと、興味・関心を見出し、毎回、活動をふりかえって、それぞれに必要なサポートを考え、反復によって技術の習得を目指しています。

回を重ねるごとに、子どもたち同士の関係性も構築され、保護者同士の親しい関係やピア・サポートグループも育ち、自分の子どもたちのしょうがいをも、受容しつつある様子も見受けられます。熱心な保護者の中には、「プログラムで実施したことをメモし、家庭でも継続して実践している」、「家でも積極的に手伝いをするようになった」といった声も聞かれ、ご家族との協力・連携も進んできています。

◆参加人数・実施日時・プログラム数 (2014年5月末現在)

グループ①	地域	バギオ市 (リハビリテーションセンターSTAC5を拠点に実施)
	人数	子ども・若者：13人、保護者：8人
	日時	日程：6/7, 14, 21, 7/5, 12, 19, 8/30, 9/6, 13, 11/8&9 (1泊2日のお泊まり会), 22, 12/6, 13, 1/10, 17, 24, 2/7, 14, 21, 28, 3/7, 4, 28, 4/4, 11, 25, 5/1, 9, 16, 23, 27 (計32日) 時間：13～17時

グループ②	地域	バギオ市 ハッピーハロー村 (村の集会所を拠点に実施)
	人数	子ども・若者：8人
	日時	日程：12/11, 13, 1/15, 16, 29, 30, 2/5, 6, 19, 20, 3/12, 13, 4/7, 8, 9, 10, 11, 5/13, 14, 15 (計20日) 時間：9時～15時

グループ③	活動地域	ベンゲット州 カバヤン町 (スタッフハウスを拠点に実施)
	参加人数	若者：7人、保護者：6人
	活動日	日程：12/3, 4, 5, 1/20, 21, 22, 1/23, 24, 2/10, 11, 12, 13, 24, 25, 26, 27, 3/3, 4, 5, 6, 17, 18, 19, 20, 4/2, 3, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 5/20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27 (計42日) 時間：【1日目】15～20時、【2日目以降】宿泊者：5～20時、通い：9～15時 【最終日】5～14時 ※家が遠い参加者は、スタッフとともに宿泊をしながら参加。

グループ④	活動地域	ベンゲット州 カバヤン町 (スタッフハウスを拠点に実施)
	参加人数	就学中の子ども：12人
	活動日	日程：4/22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 5/20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27 (計16日) 時間：【1日目】15～20時、【2日目以降】宿泊者：5～20時、通い：9～15時 【最終日】5～14時 ※就学中の子どもたちを対象にしているため、夏期休暇に集中して実施。 ※家が遠い参加者は、スタッフとともに宿泊をしながら参加。

◆具体的なプログラム内容

家事技術のスキル習得&向上	<ol style="list-style-type: none"> 掃除道具と掃除方法についての講義と演習 家事で使用する用語 / 使用する備品や必要な用具 / 住居の各場所の適切な掃除方法 (寝室、リビング、キッチン、ダイニング、トイレ、風呂、天井、床) / ゴミの適切な分別方法 / 冷蔵庫の臭気の取り除き方と掃除の方法 洗濯の方法についての講義と演習 必要な備品 / 基本的な手順と洗濯物の種類 / 汚れの落とし方 / アイロンの使い方 / 洗濯物のたたみ方 公衆衛生についての講義と演習 キッチン、風呂、トイレの衛生管理 / 食品や水の衛生管理 / 洗濯の衛生管理
調理技術のスキル習得&向上	<ol style="list-style-type: none"> 食品に関する全体的な知識についての講義と演習 買い物の方法 / お金の種類 / お金の使い方 / おつりの計算 / 安全と衛生管理 / 栄養管理・健康的な食生活 / 適切な取扱・保存方法 / 個人の衛生管理 / 賞味期限・消費期限

	<p>2. 調理に関する講義と演習 キッチン道具や材料の洗いや衛生管理の方法 / 調理中の衛生管理 / 簡単な調理 / 技術の上達の方法 / 包丁の使い方、基本的な切り方 / 基本的な調理方法（焼く、煮る） / 調理器具や備品の適切な保管の方法 / 後片付け、皿洗いの方法</p> <p>3. テーブルマナー テーブルマナー / 良い食習慣 / 食器の正しい使い方 / テーブルセッティングの方法</p>
手仕事のスキル習得 & 向上	1. ビーズを使ったネックレスづくり、2. 自然素材を使ったカードづくり、3. 古着を使った鍋敷きづくり
芸術 & 社会活動	1. 植樹活動、2. 家庭菜園用鉢植えづくり

(3) 生活向上プログラム

① 社会活動・地域社会への参画

* 植林 & エコツアー

10月17日、子ども8名、保護者9名、スタッフ15名が参加し、53本のオークの苗木を植樹しました。昨年の植林エリアの環境整備、薬用植物や観葉植物を観察するエコツアーも行いました。

* STAC5 の 16 周年記念行事

10月23日、「Keeping Love and Selfless Devotion for Our Children's Hopeful Future (子どもたちの希望ある未来に向かって、深い愛と献身を!）」というテーマのもと、子ども25名、ご家族32名、スタッフ15名が集いました。様々な形で活動に協力している自治体や市民活動団体も参加し、日頃の感謝を伝えることができました。子どもたちや保護者同士も交流を楽しみ、それぞれの関係を一層深めていく機会となりました。

* ATC の 4 周年記念行事

4月29日、子ども31名、ご家族31名、自治体関係者11名、スタッフと実習生8名が参加し、開設時からこれまでの4年間を振り返る時間となりました。昼食は、自立生活プログラムに参加する子どもたちが準備・調理し、参加者に振る舞いました。

* クリスマスパティー & 年末の集い

12月18日にバギオ市で、12月14日にカバヤン町で行われました。当日は、ハンバーガーショップ・ジョリビーとマクドナルドの協力により、子どもたちに人気のマスコットキャラクターが駆けつけてくれました。カバヤン町では、町会議員が参加し、リハビリテーションセンターの支援継続と制度づくりを自治体で取り組んでいきたいとのメッセージを送ってくれました。

【参加者】バギオ：子ども67名、ご家族127名、ゲスト27名
 カバヤン町：子ども36名、ご家族63名、ゲスト3名



② 保護者セミナー

保護者のエンパワメントを目的に、下記のセミナーを開催しました。

* 7月22日：しょうがいへの理解と行動療法と特別支援教育のスキルを学ぶ / 参加者：12名

子どもたちの性格、発するサインや特徴、それぞれのしょうがいに合わせた関わりなど、センターでの療育方法を事例にあげながら、スタッフが説明を行いました。自分の子どものしょうがいについて知識が増ただけでなく、他のしょうがいについても理解を深める機会となりました。「子どもへの理解や対応が変わり、子どもとの関わりに自信を持てるようになった」と、セミナー開催への感謝とともに、更に学んでいきたい気持ちを伝える保護者もいました。

*8月22日：しょうがいへの理解と理学療法のスキルを学ぶ / 参加者：11名

理学療法士がデモンストレーションを行い、マッサージの方法に対する理解を深めました。保護者がスキルを身につけることで、各家庭での療育が促進され、効果へとつながっていきます。

*7月23日,8月23日：「マグナカルタ」と消費者権利について学ぶ / 参加者：26名

人権委員会から人を招聘し、しょうがい者政策「マグナカルタ」について話をしてもらいました。「マグナカルタ」の認知度が低く、しょうがい者登録をすることで受けられるサービスがあることを知らない当事者や家族も多くいるからです。また、貿易産業省から人を招聘し、消費者権利と責任についての講演をしてもらいました。消費者自身が権利と責任を認識することで、家族を守り、福祉サービスを正しく利用できるようになります。



*9月17,18日：養豚の方法、消費者権利の意識向上、戦略的計画セミナー / 参加者：58名

行政と民間企業とともにセミナーを開催しました。カバヤン町農業局と飼料会社は、養豚に必要な知識やノウハウを伝えました。また、保護者会が生計向上を目的として計画している「ヤギの飼育」、「自然素材を使ったハンドクラフト」、「コーヒーの焙煎と包装」、「リサイクル品を使った商品づくり」について、貿易産業局より来た役人の指導の元、具体的な計画づくりに取り組みました。

*3月21日：いじめ、女性と子どもに対する暴力の防止 / 参加者：16名

人権委員会から専門家を招へいし、被害者の権利、いじめや暴力への対応について講義をしてもらいました。

③その他

*リラクゼーション

6月10日、保護者とスタッフが集まり、ヘアカット、マッサージセラピー、マニキュア、ペディキュアの無償サービスを行いました。子どもたち、保護者とスタッフ28名が参加しました。

*12月3,4日：しょうがいの早期発見、予防、介入方法の訓練セミナー / 参加者21名

カバヤン町では、これまで JPCOM-CARES が対象としてきたしょうがいのある子ども・青年たちだけでなく、大人も対象にしょうがい者の支援を始めようとする動きが出てきています。自治体の要望により、保健局とともに、村の保健ワーカーとボランティアを対象に、理学療法士による訓練セミナーを行いました。しょうがいは何か、どういった原因があるのか等の講義を行った後、バイタルの測り方、身体しょうがい者へ行う理学療法の具体的なテクニックを講義しました。

(4) コミュニケーション&社会資源の活用

①社会資源の活用

これまでのネットワークに加えて、新たに様々な個人・団体とのつながりが生まれています。学用品、療育機材の寄附や、手話の指導や行事へのボランティア参加などの問い合わせも増え、具体的な支援につながっています。

*物資支援

- ・南バギオロータリークラブ：経済的に恵まれない子どもたち15名に対するクリスマスプレゼントの提供
- ・バギオ市保健局 / 教育機関 / 複数の市民活動団体・個人：医薬品、事務消耗品、療育機材、衣類の提供 等

*人的支援

- ・消防局：歯科医の派遣
- ・小児科医 / 内科医 / 神経科医 / 薬剤師：無料の健康診断への協力
- ・教育機関：子どもたちとの交流行事の企画・運営

・ジョリビー / マクドナルド (ファストフードハンバーガーショップ) : 人気のマスコットキャラクターの派遣

*実習・インターンシップ

・約 10 校の専門学校や大学から、介護士や看護師、社会福祉士を学ぶ学生たちの実習の受け入れを行っています。リハビリテーションセンターの療育活動の大きな支えとなっています。

*その他

- ・神経科医小児科医：しょうがい者カードの提示で、診療代 20 パーセントの割引
- ・施設：温水プール入場料の割引

(5) 権利擁護&一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン意識向上プログラム

①地域行事への参加

*7月18,31日：全国しょうがい予防とリハビリテーション月間

バギオ市とカバヤン町で、全国しょうがい予防とリハビリテーション月間にともない、自治体主催のプログラムが行われ、子ども 43 名、その家族 63 名、スタッフとボランティア 12 名の計 119 名が参加しました。「違いを越えたつながりの強さ」というテーマが掲げられ、しょうがい児・者が参画することで、市民のしょうがい者の権利や社会参加への気づきや意識の向上につながります。

*1月17日：ファンウォーク：自閉症啓発週間

子ども 10 名、ご家族 10 名、スタッフと実習生 20 名の計 40 人が、自閉症理解を広めてもらおうと、チラシ 100 枚を配布しながら公園を歩きました。

*2月21日：ファンウォーク：ダウン症啓発月間

家族で楽しむファンウォークが行われ、ダウン症の情報をまとめたチラシを配りながら町を練り歩きました。子ども 10 名、ご家族 15 名に加えて、JPCom-CARES のスタッフが講義をしたことがある学校の生徒と先生 18 名も含め、計 60 名が参加しました。



②オープンハウス

10月22日、普段は療育で使用しているリハビリテーションセンターの存在を社会に広く周知し、しょうがい児・者の療育および自立生活のサポートにつなげるため、オープンハウスを行いました。活動写真や療育機材の展示、保護者会で作成のハンドクラフト（洗濯石けん、アクセサリや食品など）の販売を行うと同時に、理学療法士、作業療法士、特別支援教員、介護士、社会福祉士は、JPCom-CARES の取り組みについてプレゼンしました。期間中、介護専門学校や大学の先生など、昨年を超える見学者があり、「初めてしょうがい児支援のことを知った」という声も聞かれました。



③情報発信活動

実習生を送り出している教育機関や市民活動団体などから講演依頼を受け、JPCom-CARES がこれまで行ってきた取り組みやプログラム、支援内容について紹介する機会が増えています。そして若い生徒たちのしょうがいや福祉に対する意識向上や具体的な連携に発展しています。

*2月14日：私立高校 (Academia de Sophia International School) 、生徒会メンバー15名

*2月21日：私立高校 (Academia de Sophia International School) 、高校生 48名

*2月25日：教会の婦人会 (Women's Association Of The Latter Day Saints)

【成果と課題】

これまで協力くださった個人・団体との連携を維持・強化でき、そのつながりから更にネットワークが広がり、具体的な協力や支援にもつながった一年となりました。スタッフの経験も蓄積され、社会資源を活動につなげていくコミュニティワークのスキルがさらに育っています。日々の療育活動に加えて、年度途中からは、バギオ市、ハッピーハロー村、カバヤン町の3カ所で自立生活プログラムを開始し、リハビリテーションセンターの枠を越えて、コミュニティ・ベースで活動を展開できたことは、本来の支援の目的に見合う大きな成果と言えます。

バギオ市内では、しょうがい児・者の自立生活プログラムに取り組んでいる団体・施設は少なく、スタッフたちは、日々、手探りで挑戦と改善を繰り返してきました。子どもたちの特徴や得意なことを見だし、保護者の方々との信頼関係も育っています。次年度自立生活プログラムでは、子どもたちの未来を見つめながら、中長期のビジョンを描いていく必要があります。C4Cでは、フィリピンにおけるしょうがい児・者の自立生活の実現に向けて、日本の福祉団体の開拓とネットワークづくりを進め、人と知恵の相互交流の促進を目指します。

C. 海外プロジェクト助成事業

C4Cの活動趣旨に賛同し、子どもの健全な成長を願い、将来コミュニティづくりに貢献する大人となるような活動に対して助成を行っています。2013年10月からカンボジアのNGOである **Khmer Community Development** (以下、KCD)を通じて、村の子ども会活動の支援を始めました。

KCDは、ベトナム国境に接し多民族状況にある農村の子どもたちの就学支援とコミュニティ開発事業を行っているローカルNGOです。コミュニティ開発としては、経済状況改善のため、村人たちとともにマイクロクレジット、米銀行、牛銀行、有機農業普及などを行っています。



また子どもの就学率の低さはカンボジア全体の大きな問題です。農村では子どもの頃から家事や農業を手伝うことが当たりまえで、学校に行ったことがない親に、子どもの教育の重要性を理解してもらうのは並大抵のことではありません。また学校も予算や人材不足のため、教育における役割を十分に担っているとは言えません。

そこで活躍するのが「小さな先生」たちです。2007年村でデング熱が流行り何人かの子どもたちが亡くなったことを受け、子どもたちが集まってデング熱撲滅キャンペーンを始めたことが子ども会「ピース・クラブ」の始まりです。現在、クラブの中心的活動は、就学率向上を目的とした中・高校生「小さな先生」による低学年の子どもたちに対するクメール語、算数、英語の授業です。週4日ほど時間を決めて、



木陰や誰かの家に集まり、ボランティアで小さな先生が小学生や就学前の子どもに楽しく勉強を教えています。他にも毎月、子どもたちが集まって、コミュニティの問題やその解決方法を話し合っています。またサッカーやイベントなどの活動を通じて、同じ地域に住みながら交流することがあまりないベトナム人とカンボジア人の相互理解を促進させることにも、子どもたちは貢献しています。

KCDスタッフは、子どもたちの話し合いや決定を重視し、ピース・クラブを側面からサポートしています。C4Cは、現地の実情や必要に合わせて、訪問や交流を行いたいと考えています。

1-2. 国内支援事業「宮城県における地域一体で取り組む防災・福祉学習推進事業」

『東日本大震災で甚大な被害を被った宮城県において、各地域全体の防災力・福祉力を高めるとともに、普段から、住民一人ひとりの命と暮らしを守ることを目指す。』

このことを実現するために、C4Cは2013年度、宮城県内で取り組まれる児童・生徒・学生・青年層が主体的に参画する防災・福祉学習の実施について、10歳の子どもの成人する期間をイメージして、10年スパンの学習ビジョンを持ちながら、防災・福祉学習を実施・検討・計画されている地元の社会福祉協議会、NPO、学校等と相談しながら、以下のことをサポートしました。

(1) 防災・福祉学習プログラム・ツール研究開発 およびモデル事業の実施

2012年度にヒアリング調査・研究や意見交換を行った組織・団体とともに、学習プログラム・ツールの研究開発を行い、県内各地においてモデル事業を実施しました。

①非常用持ち出し袋の中身を考えよう

子どもたちが、災害時に自分自身や家族の暮らしを守るために必要なものを考えられるよう、パペットやカードを用いたワークを実施しました。

2013/7/14 「大切な人を守ろう～減災のススメ♡～」（石巻に恋しちゃった）

主催：NPO法人石巻復興支援ネットワーク

講師：コミュニティ・4・チルドレン

会場：みやぎ生活協同組合 蛇田店

対象：親子10組 人数：親子10組21人

内容：非常用持ち出し袋の中身を考えるワーク、買い物体験



2013/7/30 「夏・ボランティア体験学習スペシャル」

主催：柴田町社会福祉協議会

共催：コミュニティ・4・チルドレン

会場：柴田町地域福祉センター、ホームック柴田店

対象：町内の小学1～6年生 人数：39人

内容：非常用持ち出し袋の中身を考えるワーク、買い物体験、サバイバルランチ、ぼうさい運動会



②「ふくし」ってなあに？

「福祉」の文字の成り立ちを説明し、身の回りにある福祉の工夫について考える授業を実施しました。

2013/12/17 岩沼市立岩沼南小学校 総合学習

会場：岩沼市立岩沼南小学校

対象：5年生3クラス

講師：コミュニティ・4・チルドレン、岩沼市社会福祉協議会

内容：福祉ってなあに？ 家の中・まちの中の福祉を知ろう



2014/1/28 色麻町立色麻小学校 総合学習

会場：色麻町立色麻小学校

対象：4年生2クラス

講師：色麻町社会福祉協議会、コミュニティ・4・チルドレン

内容：言葉からのイメージ、目隠しジャンケン、物当てゲーム



③災害時の食事について考えよう

災害時でも少ない食材と調理器具で短時間に作ることでできるメニューを作りました。障がい擬似体験を同時に行い、食物アレルギー対策のメニューを採用することで、福祉的要素も含めた防災の授業となりました。

2014/2/25 岩沼市立岩沼南小学校 総合学習

会場：岩沼市立岩沼南小学校

対象：5年生3クラス

講師：コミュニティ・4・チルドレン、岩沼市社会福祉協議会

内容：「おさつ de みたらし」の調理・試食



④ボランティア・ワークショップ

中高生が、宮城の復興や地域づくりにおいて自分たちにできることを考えるワークショップを開催しました。

2013/7/31～8/1 「中高生サマーボランティア体験」

主催：角田市社会福祉協議会

協力・講師（8/1）：コミュニティ・4・チルドレン

会場：角田市総合保健福祉センター、ヨークベニマル角田店

対象：市内在住及び通学をしている中学生・高校生 人数：23人

内容：キャップハンディによる買い物体験・料理体験、

地域の担い手を知るワーク、地域防災について考えるワーク



2013/11/7 「宮城県古川高校 東日本大震災の復興に向けた取り組みを知るワークショップ」

主催：宮城県古川高校

講師：宮城県内の若手支援者（大学生ボランティア含む）12人

協力：大崎市社会福祉協議会古川支所、コミュニティ・4・チルドレン

会場：宮城県古川高校

対象：1・2年生 人数：400人

内容：ゲストからのお話（活動内容、きっかけ、目標など）をクラスごとに聞く



2014/2/8 岩沼市社会福祉協議会市民福祉講座「明日の福祉をにんご子どもたち」

主催：岩沼市社会福祉協議会

会場：岩沼市総合福祉センター 人数：50人

内容：C4C菅原による基調報告、岩沼市立玉浦中学校・

大河原町立大河原中学校・盈進中学・高等学校（広島県）

によるパネルディスカッション、車座トーク



⑤近隣助け合いゲーム

公益財団法人さわやか福祉財団の「近隣助け合い時間通貨体験ゲーム」をモデルに、実施地域の地域性を反映したかたちで、地域内の助け合い活動を疑似体験できるゲームを開発しました。

2013/10/9 「岩沼市立玉浦中学校 福祉体験学習」

会場：岩沼市立玉浦中学校

講師：岩沼市社会福祉協議会、コミュニティ・4・チルドレン



対象：中学2年生2クラス 人数：70人
内容：近隣助け合いゲーム（玉浦地区 ver.）

⑥水害支え合いゲーム

ウェザーハート災害福祉事務所の「水害バーチャルマップ」をモデルに、水害発生時の地域内の助け合い活動の重要性について学ぶことのできるゲームを中高生向けにアレンジしました。

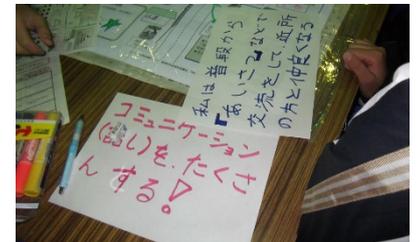
2013/10/23 「秋・ボランティア体験学習スペシャル」

主催：柴田町社会福祉協議会
共催：コミュニティ・4・チルドレン
会場：柴田町地域福祉センター
対象：市内在住の中学生 人数：10人
内容：水害支え合いゲーム、ぼうさい運動会、キャップハンディランチ



2013/11/15 美里町立不動堂中学校「13歳 社会へのかけはし」

会場：美里町立不動堂中学校
講師：美里町社会福祉協議会、ウェザーハート
対象：中学1年生3クラス
内容：水害支え合いゲーム、ポリ袋クッキング



⑦学校教職員研修

学校の教職員を対象とした防災・福祉研修において、講義・ワークを実施しました。

2013/7/24-25 「おおさき福祉学習推進セミナー」

主催：大崎市社会福祉協議会
講師：宮城県障害者福祉センター熊谷明子氏、コミュニティ・4・チルドレン
会場：松山保健福祉センターさんさん館
対象：大崎市内の学校教職員・社協職員 人数：15人
内容：講演、ワークショップ



2013/7/26 「大崎市古川地域学校防災研修会」

主催：大崎市社会福祉協議会古川支所
講師：コミュニティ・4・チルドレン
会場：大崎市立高倉小学校
対象：大崎市内の小中高校防災主任 人数：27人
内容：水害発生時を想定した時系列ワーク



2013/8/22 「大崎市古川第二小学校 学校防災研修会」

講師：大崎市社会福祉協議会古川支所、コミュニティ・4・チルドレン
会場：大崎市古川第二小学校
対象：同校全教職員 人数：30人
内容：地震発生時を想定した時系列ワーク



⑧地域ボランティア研修

地域で活動するボランティアを対象とした防災・福祉研修において、講義・ワークを実施しました。

2014/1/27 「サロンサポーター フォローアップ研修会」

主催：美里町社会福祉協議会
講師：コミュニティ・4・チルドレン
会場：駅東地域交流センター
対象：美里町社会福祉協議会サロンサポーター 人数：8人
内容：足湯体験



(2) 防災・福祉学習カフェの開催

防災・福祉学習の先進的な取り組みを学びながら、実践者がつながり合い、それぞれの地域において「これからの防災・福祉学習」に取り組むための一歩を踏み出す機会を提供することを目的として、「防災・福祉学習カフェ」を企画し、2013年度に3回実施しました。

2013/7/1 「防災・福祉学習カフェ in しばた」

主催：コミュニティ・4・チルドレン
協力：柴田町社会福祉協議会
会場：柴田町地域福祉センター
対象：仙南地域の社会福祉協議会職員など
人数：33人



内容：美里町社会福祉協議会 浅野恵美さんをゲストに、防災・福祉学習ツールの体験、参加者間情報交換

2013/12/6 「防災・福祉学習カフェ in あいづ」

主催：コミュニティ・4・チルドレン
共催：会津若松市社会福祉協議会
後援：福島県社会福祉協議会、相馬市社会福祉協議会
会場：会津大学短期大学部
対象：福島県内の社会福祉協議会職員など 人数：18人
内容：宮城県内の社会福祉協議会（柴田町・角田市・岩沼市）をゲストに、実践事例提供、参加者間情報交換・交流



2013/12/19 「防災・福祉学習カフェ in 東まつしま」

主催：コミュニティ・4・チルドレン、東松島市社会福祉協議会
後援：東松島市教育委員会
会場：大曲市民センター
対象：東松島市内の防災・福祉学習や地域防災・地域福祉に携わる方々
人数：50人
内容：愛媛県今治市社会福祉協議会、矢本第一中学校、東松島市社会福祉協議会をゲストに、事例提供、参加者間情報交換・交流



(3) 防災・福祉学習研究ワーキンググループの設置

2014年4月27日に「これからの福祉学習・防災学習を考えるつどい」を開催しました。県内8つの社会福祉協議会から10人の職員に参加いただき、今年度の取り組み予定と重点目標について情報交換を行いました。「学習の目標やプロセスを大切にしていきたい」「地域をよくする手段として、福祉教育

をいま改めて捉え直したい」など、これからの実践に向けたさまざまな思いを知り合うことができました。

(4) 県内外への情報発信

県内外の実践者の方々にC4C宮城事業を知っていただく機会として、下記の学会・講座において事例報告や講師をつとめました。

- 2013/11/17 「日本福祉教育・ボランティア学習学会大会 in 金沢」において実践事例報告
- 2013/12/7 コミュニティ・4・チルドレン「第11回 I Do Café」において実践事例報告
- 2013/12/15 北海道新ひだか町社会福祉協議会主催事業においてモデル事業実施
- 2014/2/13 岩手県大船渡市社会福祉協議会主催事業においてモデル事業実施
- 2014/3/20 大阪府東大阪市社会福祉協議会主催事業において実践事例報告・モデル事業実施

(5) 防災・福祉学習プランの企画、立案、実施への協力

県内で実施された防災・福祉学習プランおよび事業について、共催および協力団体として実施をサポートしました。

- 2013/8/6 岩沼市社会福祉協議会「小中学生のためのボランティア体験教室」
- 2013/8/10 日本福祉大学 学生ボランティアバス（名取市・石巻市）

【成果と課題】

2012年度のヒアリング調査・研究の結果を踏まえ、2013年度は、県内各地の実践機関・実践者の皆さんとともに、プログラム・ツールの研究開発やモデル事業の実施など、より具体的に事業を展開できた一年となりました。

また、子どもを対象とした事業だけでなく、学校教職員や地域ボランティアに向けた事業も展開できたことや、県内外で実践事例報告やモデル事業実施の機会をいただけたことで、幅広い年代層や活動領域の方々の取り組みに携わることができました。それを通じて、年代に応じたプログラム・ツールの研究開発に取り組む上での参考にさせていただくことができ、更に幅広いネットワークを構築することができました。

2014年度においては、これまでの2年間でともに取り組んできた機関から引き続き協働実践のお声掛けをいただいているほか、新しい地域や機関とも連携・協働の可能性が生まれようとしています。また、自主事業として、福祉・防災学習カフェのほか、「災害時要援護者の食」をテーマとした新規事業を立ち上げ、特色ある実践を積み重ねていきたいと考えています。

2014年度は、宮城事業が立ち上がってから3年目に入ります。これまでの2年間で培ってきた実践経験やネットワークを活かしながら、事業および組織運営の基盤を固め、継続的・発展的な活動ができる組織体制づくりを目指していきたいと考えています。

2. 視察・研修・ワークショップなど

2-1. スタディ・ツアー

2013年度は諸事情により、スタディツアーを開催しませんでした。2014年度はタイとフィリピンへのスタディツアーの開催を計画しています。

2-2. 国内 I Do Café（あい・どう・かふえ）事業

I Do Café では、子どもたちの明るい未来と育ちを願い、その想いを形にし、社会に貢献しようとしている実践者をゲストに招きお話をうかがっています。ゲストのお話や参加者同士のディスカッションを通

じて「つながり」と「広がり」を生み出すことを目的に、2か月に一度大阪を中心に開催しています。ゲストや参加者一人ひとりの「I Do」が「We Do」へと広がりつながっていくことを目指しています。

<今年度の開催実績>

◆Vol.9【日 時】2013年7月7日（日）15時～18時 【場所】パル・レバンテ小路東2階

【ゲスト】NPO法人サンフェイス代表 久田亮平さん

【テーマ】すべての子どもたちに夢は必要だっ！

【人数】25名（うちサンフェイス関係者12名）

【内容】障がいがあっても「夢」や「生きがい」を感じることでできる社会を目指す久田さんに、福祉業界で働くようになったきっかけやサンフェイスが行う児童デイサービスやアート教室などの活動などをお話していただきました。地域でしようがいの有無に関わらず、様々な人々が集まる場を作り続けておられ、また最近では、作業所製品のブランド化を目指しておられることから、みなさんとともに新製品を考えました。



◆Vol.10【日 時】2013年10月19日（土）15時～18時 【場所】サポートネットワークアミーカ

【ゲスト】NPO法人Kid'sぼけっと副代表川口裕之（めりい）さん

【テーマ】遊び心は夢源なり。～めっちゃおもろい遊び場を作ろう～

【人数】16名（11名+ゲスト+ちょっとバンスタッフ1名+C4Cスタッフ3名）

【内容】子どもたちが遊びを通じて、自主性や創造性を仲間とともに育める環境を目指して活動しておられるめりいさんをお招きして、子どもたちが地域とつながりながら自由に遊べる空間「冒険遊び場ちょっとバン」の取り組みについてお話していただきました。ディスカッションではみなさんと、遊びの持つ重要性や可能性について話し合いました。



◆Vol.11【日 時】2013年12月7日（土）13時～15時30分 【場所】東北学院大学土樋キャンパス5号館
【共催】復興大学災害ボランティアステーション

【ゲスト】コミュニティ・4・チルドレンの理事・スタッフ4名

【テーマ】子どもたちの笑顔がひろがる地域づくり～フィリピン・タイ・宮城での取り組みとは～

【人数】32名

【内容】会員が比較的多い宮城県で初めてCaféを行いました。宮城県の会員の方々、一緒に活動をしているの方々、関心を寄せる方々に、C4Cが行う各地での活動を紹介しました。参加者は社協職員、災害ボランティアセンター職員の方が多く、海外の話聞くのは初めてのようでした。それでも地域や福祉、災害などに仕事上かわりがある方であるため、防災や地域づくりの中で、どのように子どもと関わるのかを真剣に話し合われていました。ディスカッションでのお互いの交流も盛んでした。

2013年度のIDoCaféは関西で2回、宮城県で1回、実施しました。2014年度もまた、関西に限定せず、日本のどこかで地域と子どものために斬新な活動をしておられる方を探して、経験交流や関係づくりに尽力したいと考えています。

2-3. 招聘・視察・研修事業

(1) カンボジア農村プレックチュレイにおけるコミュニティ・マップ作りワークショップ

C4Cでは、2013年10月よりカンボジアの農村プレックチュレイにある子ども会「ピース・クラブ」活動を支援し始めました。前述したように、ピース・クラブでは「小さな先生」と呼ばれている中学生が中心となって低学年の子どもたちに読み書きや算数をボランティアで教えています。このような「小さな先生」たちのおかげで、プレックチュレイ地域における初等教育の就学率は向上しました。



「小さな先生」の能力をより一層向上させるため、私たちに何が出来るかを考えた結果、地域資源マップ作りワークショップを提案し、2013年12月にカンボジア現地でデモンストレーションを行いました。

そこで明らかになったことは、子どもたちだけでなく、大人たちにとっても地図を見ること自体が稀なことであり、学校では地図を読む技能を獲得する機会もないことです。私たちは地元コミュニティの地図を作り、その地図を読む技能を身に着けることによって、地域を客観視し、問題をより明確に把握することができると考え、KCDスタッフと相談し、ワークショップを開催することにしました。



2014年5月13～16日、ウェザーハート災害福祉事務所の千川原公彦さんを招いて、現地で子どもたちと共にコミュニティ・マップ作りのワークショップをプレックチュレイ小学校の教室で行いました。対象者は、ローカルスタッフと小さな先生の30名。4つのグループに分け、4エリアに分けたUpper PrekChreyと呼ばれる一つのコミュニティに出かけ、実際に地図を書き、小学校に戻って、大きな地図に清書し、その上にピース・クラブのメンバーの家と小さい先生が授業を行う青空教室をマッピングしました。小学生や就学前の子どもも集まったため、教室は賑やかになりました。

地図作りワークショップに参加した小さな先生たちは、地図を作ってみて、よりよく自分のコミュニティのことが理解できるようになり、地図を利用して色々なことができることがわかったと感想を述べてくれました。ワークショップの趣旨をよく理解し、問題意識や自己表現能力が高い彼女たちは、ワークショップの後も、東日本大震災の被災地の状況や自然被害について興味深く質問を続けていました。

地図は、地域を知るための道具です。今後、小さな先生たちがどのようにこの道具を自分たちのコミュニティで利用していくのかを、C4Cは継続して観察し、一緒に発展させていきたいと考えています。

3. パートナーシップ推進事業

3-1. 調査事業

(1) 宮城県における地域一体で取り組む防災・福祉学習推進事業のための調査 調査実施者:菅原清香会員

宮城県および周辺県において防災・福祉学習事業の実施主体を訪問し、ヒアリング調査・研究、事業実施に関する意見交換等を行いました。特に柴田町および角田市社会福祉協議会主催事業では、「東日本大震災発災時における食生活に関するアンケート」調査を実施しました。その結果を両機関と共有し、今後のプログラム・ツール開発に向けた意見交換を行いました。また県内で開催された各種議会に出席し、情報交換・ネットワーク構築に取り組みました。

(2) フィリピン・自立生活プログラム開発のための調査 2013年8月25日～11月18日、調査実施者:山田有希子理事

これまで JPCOM-CARES はしょうがい児のリハビリテーションに重点をおいてセンターを運営してきましたが、利用者やその保護者も高齢化しつつあることから、しょうがいがあっても地域の中で幸せに暮らせるようになるためには、自立生活支援や就労支援に力を入れる必要が生じてきました。そのため、山田理事を派遣し、利用者の家族が置かれた状況を調査し、スタッフと一緒にこれからのプロジェクトについて話し合う機会を持ちました。また同時に申請していた、世界の人々のための JICA 基金「フィリピン国しょうがい児・者のための自立生活および生活技術向上プログラム(10 月下旬～7 月下旬までの約 10 か月間)」が採択されたため、自立生活支援プログラムの開始にも立ち会いました。

(3) タイ調査 2013 年 9 月 9 日～10 月 1 日、調査実施者：加藤眞理子理事

連携団体であるカムクーンカムペン財団を訪問し、伝統文化継承活動を視察するとともに、C4C がキャンペーンをして寄付を募った、ノンメック村の牛銀行の状況を視察しました。

伝統文化継承活動では、小学校高学年から中学生の 33 名を対象に保存食作り・料理講習会を行いました。伝統食作りは、地域の伝統的知識を伝える重要な活動の一つです。最近では親や保護者が工場で働くため、子どもの食育を考える大人がいません。子どもたちは惣菜やお菓子を買って食べることに慣れてしまい、農村にいながら自然の恵みを利用する方法を知りません。そこで子どもたちは村の高齢女性たちから野菜、果物、魚などの保存食の作り方を学び、自分たちでメニューを考え、グループごとに調理しました。

牛銀行事業については、C4C が送金した寄付金で買った牛を 2 頭確認し、飼育者にインタビューしました。飼育者の 2 人はともに、出稼ぎをやめてこれから村で暮らしていこうとしている農民です。牛の飼育によって経済的に支援できるとともに、彼らも牛銀行の利益によって青少年のための就労支援基金を設立することに賛同しています。

(4) カンボジア・Khmer Community Development (KCD) 2013 年 12 月 9～13 日、調査実施者：栗原英文代表理事、加藤眞理子理事、千川原公彦氏（防災アドバイザー、ウェザーハート災害福祉事務所）

以前から話し合いを続けていましたが、KCD からプレックチュレイ村の子ども会活動（ピース・クラブ）への支援要請を受け、C4C が助成することを決定しました。そして予算や報告書作成などの手続きについて合意しました。また具体的な支援方法として、防災・福祉マップ作りをツールとした子どもとコミュニティ支援の可能性を探るため、防災アドバイザーである千川原さんを招聘して、村の子どもたちやスタッフに対して地域資源マップのデモンストレーションを行いました。

プノンペンの KCD 事務所でスタッフに対して、日本では地域資源マップがどのように利用されているのかを千川原さんがパワーポイントで紹介した後、プレックチュレイに行き、ピース・ライブラリーで、年長の子どもたち（中学生と小学生）に、コミュニティの良い点と弱い点をいくつか挙げてもらい、グーグルマップを拡大した地図に、ポストイットを貼っていきました。

今回、デモンストレーションを行いました。参加したい小さな子どもたちが多く集まりすぎたため、深い議論にまで至りませんでした。現時点では日本で行っているような防災マップ作りを行うよりも、まず自分たちのコミュニティを知るために、子どもたちの手でコミュニティ・マップを作ることから始めた方がいいのではないかと考え、前述したように 2014 年 5 月に訪問したときに、コミュニティ内を歩きながら地図を作るワークショップを行いました。



4. 情報提供事業

4-1. ホームページ、ブログ、facebookによる情報発信

2013年6月～2014年5月末の間に、1209人の方に訪問いただき、4421のプレビューをいただきました。「c4c」や「community 4 children」といった団体名での検索キーワードに加えて、「I Do Café」、「スタディツアー」、「防災福祉学習」といったキーワードでの検索も多くなってきています。

今年度は、よりわかりやすいホームページを目指して内容の充実を図ります。またブログ更新頻度を高め、現地のフレッシュな情報をお届けできるように努めます。

★<http://ameblo.jp/community4children/>

★<http://blog.canpan.info/c4cc4c/>

4-2. イベント参加

ワン・ワールド・フェスティバル 2014年2月1日(土)～2日(日) 10時～17時 於 大阪国際交流センター

昨年に引き続き「共に生きる世界をつくるために一人ひとりができること」というテーマのもと開催された、国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」に参加しました。

5. 組織運営

2013年度会員について

2014年5月31日現在

会員数比較

	2012年度	2013年度
正会員(個人)	13	16
正会員(団体)	2	0
賛助会員(個人)	16	9
賛助会員(団体)	1	2
使途指定寄付(タイ牛銀行)	14	0
使途指定寄付(フィリピン)	1	1
一般寄付	2	8

正会員数は、2011年度とそれほど変わりませんが、賛助会員数は減少しました。2013年度はスタディツアーを実施しなかったため、賛助会員を勧誘することができませんでした。また2012年度正会員であったが、2013年度に継続して会員にならなかった者が3名1団体ありました。お知らせなど、今後のフォローが必要だと考えます。

2014年度 コミュニティ・4・チルドレン(C4C) 事業計画書

Community 4 Children

2014年6月1日～2015年5月31日まで

2014年度は、昨年度同様、タイ国とフィリピン国において、現地の連携団体の運営と活動を支援するとともに、東日本大震災で被災した宮城県の子どもたちを支援するための基盤づくりを継続します。またカンボジア国においても専門家派遣やワークショップなどを必要に応じて実施していきます。

アジアの子どもたちを継続的に支援するために、会員制度を整備し、団体運営にも力を注ぎます。

1. NGO 支援事業

①海外支援事業

これまで通り、タイ国カムクーンカムペン財団とフィリピン国 JPCOM-CARES への支援は継続するとともに、現地の団体が主体的に助成金等を獲得できるよう、C4C からもアドバイスをを行います。

A. タイ・カムクーンカムペン財団(Khamkhun Khamphaeng)支援(タイ王国コンケン県)

- －奨学金
- －地元文化の継承
- －技術・知識の習得
- －コミュニティ植林
- －牛銀行

B. JPCOM-CARES(フィリピン共和国バギオ市、ベンゲット州カバヤン町)

- －リハビリテーション・センター
- －奨学金・就学支援
- －保護者会
- －自立生活支援プログラム

C. 海外プロジェクト助成(短期の事業単位での助成)

Khmer Community Development(カンボジア王国カンダール州プレックチュレイ地区)

その他支援要請があった場合に、別に定める助成要綱に沿ってその都度検討します。

②国内支援事業

A. 宮城県における地域一体で取り組む防災・福祉学習推進事業

東日本大震災で甚大な被害を被った宮城県において、各地域全体の防災力・福祉力を高めるとともに、普段から、住民一人ひとりの命と暮らしを守ることを目指して、児童・生徒・学生・青年層が主体的に参画する防災・福祉学習の実施について、10年スパンの学習ビジョンを持ちながら防災・福祉学習を推進します。特に今年度は、昨年度の調査研究結果をもとに、地元の社会福祉協議会やNPO等との協働事業の実施や防災・福祉学習に関する研究会の設立など、より具体的な事業の展開と今後に向けた体制・ビジョンづくりを行います。

－防災・福祉学習のモデル事業の実施 子どもたちの震災の経験・記録集の作成、防災マップづくり、研修会・ワークショップ等の開催

－防災・福祉学習プログラム・ツール研究開発

- －防災・福祉学習カフェ
- －福祉学習研究ワーキンググループ設置
- －ホームページ等を活用した情報発信
- －防災・福祉学習プランの企画、立案、実施への協力(情報提供、コーディネート等)

2. 視察・研修・ワークショップなど

① スタディツアー

A. タイ・スタディツアーの実施

カムクーンカムペーン財団との共同開催(10月開催予定)

B. フィリピン・スタディツアーの実施

JPCOM-CARESとの共同開催(3月開催予定)

② 国内 IDoCafe 事業(年3回開催予定)

子どもやコミュニティづくりに関わる人々から経験を聞く集まりは、今年度も継続して、関西を中心に開催していきます。IDoCafeは、何らかの想いを形にし、社会に貢献しようとする人々が、ディスカッションを通じて新しいつながりを生み出す場であり、これからのC4Cの活動の人的ネットワークづくりとして位置付けています。

③ 招聘・視察・研修事業

- ・理事、社員、寄付者、専門家を中心とした現地視察を実施します。
- ・日本、タイ、フィリピンをはじめラオス、カンボジアなどのアジア諸国で、C4Cと関連する活動を行う団体、個人との相互交流を図ります。
- ・日本国内での現地報告会、講座や演習の開催、講師派遣
- ・子どもを中心とした地域づくり推進を目的とした講座や演習の実施、もしくは講師およびアドバイザーの派遣

3. パートナーシップ推進事業

① 調査事業

- ・日本、タイ、フィリピンをはじめ、ラオス、カンボジアなどのアジア諸国で、子どもたちを中心とした地域づくり等を行っている団体のヒアリング調査・視察を実施し、対象事業を検討し、パートナーづくりを進めます。
- 宮城県における防災・福祉学習推進事業のための調査研究・調整を、1年間委託して行います。

② ホームページやブログなどを通じて、C4Cの取り組みを発信し、パートナーづくりを進めます。

4. 情報提供事業

① ホームページ、ブログによる情報発信

C4Cのホームページ、CANPANやameblo等のブログを随時更新し、C4Cの取り組みを発信していきます。

② ワンワールドフェスティバル等、国際協力や地域づくりに関連する様々なイベントに参加し、C4Cの活動を紹介します。

③ 現地提携団体への情報提供

世界の動向をはじめ、活動をサポートする情報を提供します。

5. その他

① 上記の他、C4Cの目的を達成するために必要な事業を実施していきます。



地域は子どものために、子どもは地域のために

<http://www.community4children.com/>